

経営相談 Q & A

個人も企業も成長するための「人生 100 年時代の社会人基礎力」

Q

当社は、新入社員研修を始め、階層別、職能別に各種研修を定期的実施するなど社内教育に努めています。「個人も会社も成長できるよう社員一人一人の能力を引き上げたい」と考えておりますが、具体的にどのような力を向上させればいいのか示せていない状況です。仕事を遂行する上で重要になる能力や考え方について教えてください。

A

「社会人基礎力」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。

社会人基礎力とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が 2006 年から提唱している概念のことです。以下では、同省が定義する社会人として身に付けておきたい基礎力について解説します。

1. 社会人基礎力

社会人基礎力は「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の 3 つの能力と 12 の要素から構成されています（図表 1）。

（1）前に踏み出す力（アクション）

「一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力」と定義され、「主体性：物事に進んで取り組む力」「働きかけ力：他人に働きかけ巻き込む力」「実行力：目的を設定し確実に行動する力」の 3 つの要素から構成されています。指示待ちにならず、一人称で物事を捉え、自ら行動できるようになることが求められています。

（2）考え抜く力（シンキング）

「疑問を持ち、考え抜く力」と定義され、「課題発見力：現状を分析し目的や課題を明らかにする力」「計画力：課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」「創造力：新しい価値を生み出す力」の 3 つの要素から構成されています。論理的に答えを出すこと以上に、自ら課題提起し、解決のためのシナリオを描く、自律的な思考力が求められています。

（3）チームで働く力（チームワーク）

「多様な人々とともに、目標に向けて協力する力」と定義され、「発信力：自分の意見をわかりやすく伝える力」「傾聴力：相手の意見を丁寧に聴く力」「柔軟性：意見の違いや相手の立場を理解する力」「状況把握力：自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力」「規律性：社会のルールや人との約束を守る力」「ストレスコントロール力：ストレスの発生源に対応する力」の 6 つの要素から構成されています。グループ内の協調性だけに留まらず、多様な人々との繋がりや協働を生み出す力が求められています。

図表 1：社会人基礎力



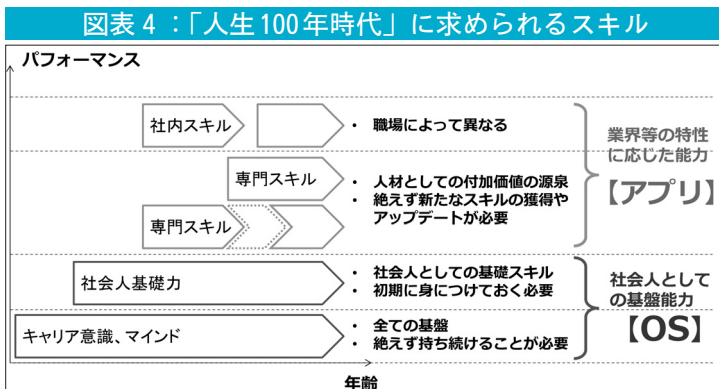
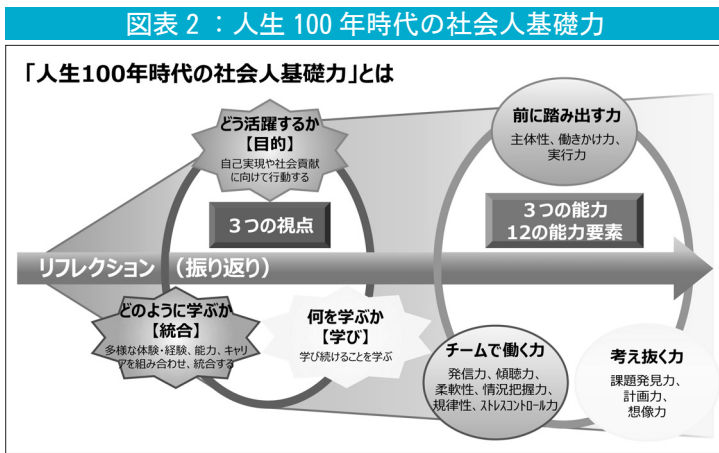
（出典）経済産業省「人生 100 年時代の社会人基礎力」を基に当研究所で作成（以下、同じ）

2. 人生 100 年時代の社会人基礎力

人生 100 年時代に突入した状況を踏まえ、経済産業省は 2018 年 3 月に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」において、これまで以上に個人が企業・組織・社会との関わりが深くなる中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生 100 年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。社会人基礎力の 3 つの能力と 12 の要素をベースに、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、学び（何を学ぶか）・統合（どのように学ぶか）・目的（どう活躍するか）という新たな 3 つの視点のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられています（図表 2、3）。

3. 「人生 100 年時代」に求められるスキル

経済産業省は、人生 100 年時代に求められるスキルをパフォーマンス別に 2 つの能力に分類しています。1 つ目は、社内スキル・専門スキルなど業界等の特性に応じた能力を「アプリ」に例え、



図表 3：新たな 3 つの視点

何を学ぶか【学び】
学び続ける力、「OS」と「アプリ」、マインドセットとキャリアオーナーシップ
どのように学ぶか【統合】
リフレクションと体験・実践、多様な能力を組み合わせる
どう活躍するか【目的】
自己実現や社会貢献に向けて、企業内外で主体的にキャリアを切りひらいていく

2 つ目は、社会人基礎力やキャリア意識・マインドを社会人としての基盤能力として「OS」に例えています。そして、人生 100 年時代の働き手は、「アプリ」と「OS」を常にアップデートし続けていくことが求められています（図表 4）。

「人生 100 年時代」や「第四次産業革命」といわれるほど企業や就業者を取り巻く環境は大きく変化しています。平均寿命が上がればこれまで以上に働く機会が増えるでしょう。また、終身雇用の崩壊により、定年まで安泰という時代ではなくなりつつあります。今後は 1 つの会社で働き続けるのではなく、ライフステージに合わせて様々な

分野で働く可能性が高く、だからこそ、どこでも通用する普遍的なスキルである社会人基礎力を身につけることが必要だと考えます。経済産業省の web サイトには「社会人基礎力チェックリスト」が掲載されています。自分自身のスキルを確かめる研修資料として活用することも可能ですので参考になさってください。

個人が成長するためには、主体性をもって学び続けることで自らの「強み」を増やしキャリアを広げなければなりません。一方、企業は、効果的な人材確保を通じて多様な人材が活躍する場を提供するプラットフォームとなることが求められます。今後、人材の流動性は激しくなると指摘される中、企業は、いかに社員のエンゲージメントを向上させられるか、人材をいかに有効に活用できるかが鍵となりそうです。（八木陽子）